

透明結晶の機能性と科学

～深紫外光源で創生されるエコシステム～

2020年9月9日13時～18時（予定）

近年、従来は絶縁体とされていたようなワイドバンドギャップ材料を用いた深紫外領域のレーザや大電流動作が報告され、新しいデバイスの創造がなされている。これは従来の電子物性学の常識を打ち破る技術であり、革新的なデバイスの新たな創生が期待できる。

本シンポジウムでは、深紫外光源をはじめとした透明結晶の機能性と科学について、先駆的な成果を挙げている研究者が一同に介し、今後の課題や学問的な問題点などを議論する。

三宅 秀人（三重大学）

高品質AlN結晶の作製とその紫外線デバイス応用

藤岡 洋（東京大学）

絶縁体AlNの導電性制御

久志本 真希（名古屋大学）

UV-C半導体レーザの作製

岩谷 素顕（名城大学）

高品質AlGaIn結晶の作製とUV-B半導体レーザの作製

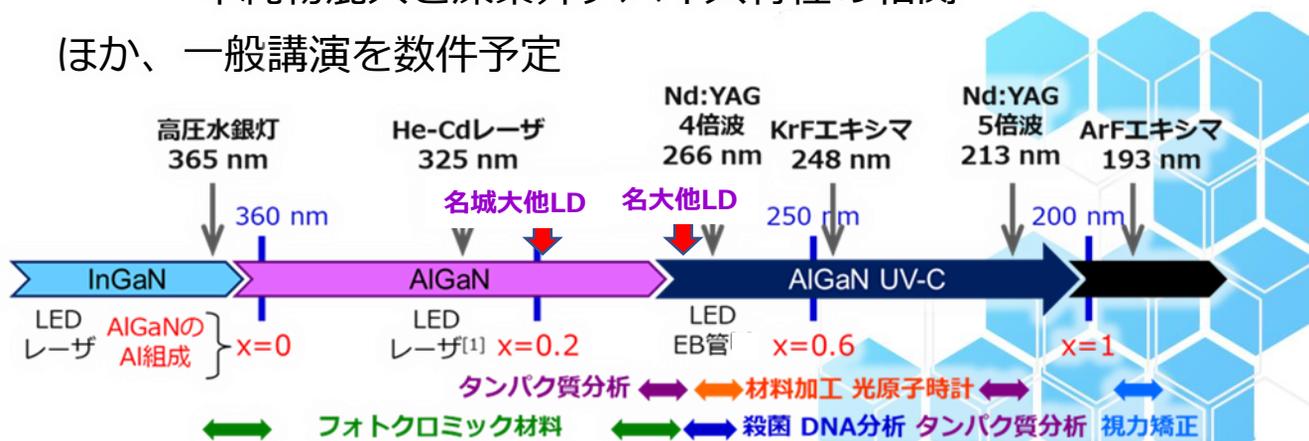
片山 竜二（大阪大学）

ワイドギャップ半導体の分極制御と量子光学応用

寒川 義裕（九州大学）

不純物混入と深紫外デバイス特性の相関

ほか、一般講演を数件予定



代表世話人：谷川智之（大阪大学）